

# SPECIFICATIONS

	KA-1100SD	KA-990SD	KA-880SD
<b>【総合特性】</b>			
定格出力			
20Hz~20kHz(8Ω動作5Ω)(THD0.006%)	180W+180W	125W+125W(THD0.007%)	120W+120W(THD0.008%)
8Ω(THD0.004%)	150W+150W	105W+105W	100W+100W
1kHz(8Ω動作8Ω)(THD0.004%)	160W+160W	110W+110W	105W+105W
6Ω(THD0.004%)	190W+190W		
4Ω(THD0.004%)	210W+210W	150W+150W	
全高調波ひずみ率			
PHONO→SP端子			
定格出力時 20Hz~20kHz	0.004%	0.004%	0.005%
TUNER・AUX・TAPE→SP端子			
定格出力時 20Hz~20kHz 8Ω	0.004%	0.004%	0.005%
1/2定格出力時 20Hz~20kHz	0.003%	0.003%	0.004%
混交調ひずみ率(60Hz:7kHz=4:1)			
TUNER・AUX・TAPE→SP端子			
定格出力時 8Ω	0.003%	0.004%	0.005%
周波数特性			
TUNER・AUX・TAPE→SP端子			
DC~200kHz	+0dB, -3dB	+0dB, -3dB	+0dB, -3dB
ダンピングファクター 50Hz	1000	1000	1000
入力感度および入力インピーダンス			
PHONO(MM)	2.5mV 47kΩ	2.5mV 47kΩ	2.5mV 47kΩ
PHONO(MC)	0.1mV 100Ω	0.2mV 100Ω	0.2mV 100Ω
TUNER・AUX・TAPE	150mV 47kΩ	150mV 47kΩ	150mV 47kΩ
ADAPTOR・IN	150mV 47kΩ	150mV 47kΩ	150mV 47kΩ(TEPE, VIDEO)
SN比(IHF・A)			
PHONO(MM)→SP端子	88dB	88dB	86dB
PHONO(MC)→SP端子	78dB(250μV)	70dB(250μV)	70dB(250μV)
TUNER・AUX・TAPE→SP端子	108dB	108dB	107dB
トーンコントロール			
BASS 200Hz	50Hz±10dB	100Hz±10dB	100Hz±10dB
BASS 400Hz	100Hz±10dB		
TREBLE 3kHz	10kHz±10dB	10kHz±10dB	10kHz±10dB
TREBLE 6kHz	20kHz±10dB		
ラウドネスコントロール(Vol -30dB)			
30Hz	+3dB+6dB+9dB	+9dB(100Hz)	+9dB(100Hz)
60Hz	+3dB+6dB+9dB		
90Hz	+3dB+6dB+9dB		
サブソニックフィルター -3dB	18Hz 6dB/oct	18Hz 6dB/oct	18Hz 6dB/oct
ライズタイム			
TUNER・AUX・TAPE→SP端子	1.7μs	1.7μs	1.7μs
スルーレート			
TUNER・AUX・TAPE→SP端子	±100V/μs	±100V/μs	
出力帯域幅(ひずみ率0.04%)			
TUNER・AUX・TAPE→SP端子	5Hz~90kHz	5Hz~50kHz	5Hz~50kHz
<b>【マイクアンプ用 PHONO-TAPE REC】</b>			
PHONO最大許容入力			
PHONO(MM) 1kHz	200mV(0.003% THD)	200mV(0.005% THD)	200mV(0.005% THD)
PHONO(MC) 1kHz	8mV(0.003% THD)	15mV(0.005% THD)	15mV(0.005% THD)
PHONO RIAA偏差 20Hz~20kHz	±0.2dB	±0.3dB	±0.3dB
<b>【出力レベルおよび出力インピーダンス】</b>			
ADAPTOR・CUT	150mV 680Ω	150mV 330Ω	150mV 220Ω
TAPE REC	150mV 680Ω	150mV 330Ω	150mV 220Ω
<b>【電源部その他】</b>			
電源電圧・電源周波数	100V 50Hz/60Hz	100V 50Hz/60Hz	100V 50Hz/60Hz
定格消費電力(電気用品取締法に基づき表示)	370W	230W	200W
電源コンセント 電源スイッチ連動	2個 100W	2個 100W	2個 100W
電源コンセント 電源スイッチ非連動	1個 400W	1個 400W	1個 400W
最大外形寸法(幅×高さ×奥行)mm	440×158×383	440×143×383	440×133×333
重量	14.7kg	11.0kg	9.4kg

	KT-3030	KT-2020	KT-1010II	KT-880
<b>【FM部】</b>				
受信周波数範囲	76MHz~90MHz	76MHz~90MHz	76MHz~90MHz	76MHz~90MHz
アンテナインピーダンス	75Ω不平衡	75Ω不平衡	75Ω不平衡	75Ω不平衡
感度 DISTANCE(75Ω)	0.95μV/10.8dBf	0.95μV/10.8dBf	0.95μV/10.8dBf	0.95μV/10.8dBf
DIRECT(75Ω)	5μV/25.2dBf			
SN比50dB感度				
DISTANCE(MONO)	1.77μV/16.2dBf	1.8μV/16.2dBf	1.8μV/16.2dBf	1.8μV/16.2dBf
DISTANCE(STEREO)	22μV/38.1dBf	22μV/38.1dBf	24μV/38.8dBf	24μV/38.8dBf
DIRECT(MONO)	10μV/31.2dBf			
DIRECT(STEREO)	100μV/51.2dBf			
高調波ひずみ率				
WIDE(MONO)				
100Hz	0.006%	0.007%	0.008%	
1kHz	0.004%	0.005%	0.0055%	0.006%
50Hz~10kHz	0.009%	0.01%	0.02%	0.02%
WIDE(STEREO)				
100Hz	0.009%	0.01%	0.01%	
1kHz	0.007%	0.008%	0.0085%	0.009%
50Hz~10kHz	0.03%	0.03%	0.1%	0.1%
NARROW(MONO)				
100Hz	0.02%	0.05%	0.1%	
1kHz	0.01%	0.04%	0.12%	
50Hz~10kHz	0.02%	0.1%	0.15%	
NARROW(STEREO)				
100Hz	0.03%	0.06%	0.4%	
1kHz	0.02%	0.05%	0.3%	
50Hz~10kHz	0.1%	0.3%	0.6%	
SN比(100%変調85dBf入力)				
(MONO)	99dB	99dB	99dB	98dB
(STEREO)	91dB	91dB	91dB	88dB
キャプチャーレシオ(NARROW)	2.0dB	2.5dB	2.5dB	1.0dB
実効選択度(IHF)(WIDE)	70dB	70dB	45dB	60dB
(NARROW)	100dB	100dB	90dB	
ステレオ・セパレーション				
WIDE 1kHz	71dB	70dB	68dB	68dB
50Hz~10kHz	60dB	55dB	50dB	
15kHz	50dB	45dB	40dB	
NARROW 1kHz	60dB	55dB	50dB	
50Hz~10kHz	50dB	45dB	40dB	
15kHz	45dB	40dB	36dB	
周波数特性 20Hz~15kHz	±0.5dB	±0.5dB	±0.5dB	+0.2dB -0.8dB
イメージ妨害比 84MHz	100dB	95dB	95dB	90dB
IF妨害比 84MHz	110dB	110dB	110dB	100dB
スプリアス妨害比 84MHz	110dB	100dB	100dB	100dB
AM抑圧比 55.2dBf	70dB	70dB	65dB	65dB
サブキャリア抑圧比	75dB	70dB	70dB	70dB
出力レベルおよび出力インピーダンス				
FM 1kHz 100%変調 固定出力	0.6V/2.3kΩ	0.6V/1.7kΩ	0.6V/1.7kΩ	0.6V/3.3kΩ
可変	1.2V/1kΩ			
マルチバス出力 垂直出力	0.05V/10kΩ			
水平出力	0.6V/10kΩ			
<b>【AM部】</b>				
受信周波数範囲		531kHz~1602kHz	522kHz~1629kHz	531kHz~1602kHz
感度		10μV・250μV/m	10μV・250μV/m	10μV・300μV/m
高調波ひずみ率(1000Hz-WIDE)		0.3%	0.3%	0.3%
(1000Hz-NARROW)		0.6%	0.8%	
イメージ妨害比(1000kHz)		40dB	40dB	40dB
IF妨害比(1000kHz)		60dB	60dB	60dB
選択度(IHF)(WIDE)		30dB	30dB	30dB
(NARROW)		50dB	50dB	
出力レベルおよび出力インピーダンス		0.12V/1.7kΩ	0.18V/1.7kΩ	0.18V/3.3kΩ
SN比(30%変調1mV入力)		55dB	52dB	50dB
<b>【電源部その他】</b>				
電源電圧・電源周波数	100V 50Hz・60Hz	100V 50Hz・60Hz	100V 50Hz・60Hz	100V 50Hz・60Hz
定格消費電力(電気用品取締法に基づき表示)	16W	14W	15W	10W
最大外形寸法(幅×高さ×奥行)	440×88×326.5	440×88×331	440×64×317	440×64×318
重量	4.6kg	4.5kg	3.8kg	3.3kg

# KENWOOD

## SUPER DLD AMPLIFIER

KA-1100SD/KA-990SD/KA-880SD

## SUPER SYNTHESIZER TUNER

KT-3030/KT-2020/KT-1010II/KT-880



●お買上げは信用ある店で

トリオ株式会社(〒150)東京都渋谷区渋谷2の17の5(シオノギ渋谷ビル) ●丸の内ショールーム東京都千代田区丸の内3の4の1新国際ビル ☎213-8775 ●カタログの内容についてのお問い合わせは、お近くの加盟特約店にご相談ください。もし販売店でおわかりにならないときは、トリオお客様相談室 ☎486-5515 ●トリオクレジットもご利用ください。 ● 定額・意匠は改善のため、予告なく変更することがあります。 ● アンプ、チューナーの補修用性能部品の最低保有期間は製造切後8年です。 ● 保証書は所定事項の記入の有無をご確認のうえ、お受けください。

TRIO-KENWOOD CORPORATION

AHA-E003 発行年月日：昭和60年1月19日 T50 4版

★ SUPER D.L.D. CIRCUIT GRAPHIC DISPLAY

[ DYNAMIC POWER / MAXIMUM CONTINUOUS AVERAGE POWER VS LOAD IMPEDANCE ]

KA-1100SD

OUTPUT CURRENT [A]

0 5 10 15

262W+262W

225W+225W

191W+191W

164W+164W

441W+441W

368W+368W

294W+294W

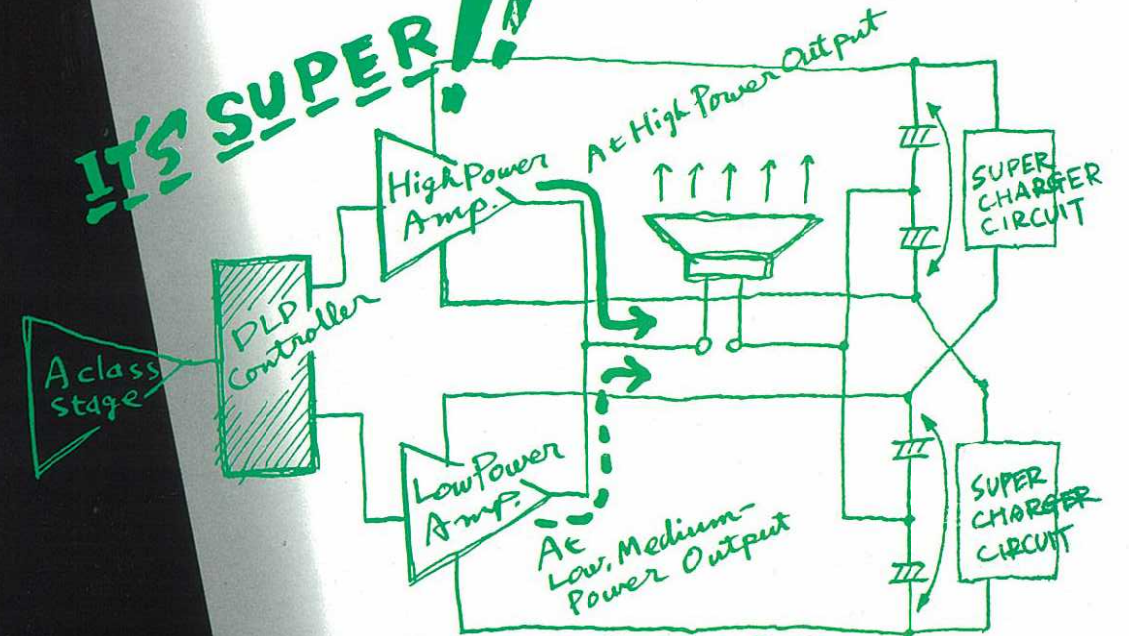
241W+241W

2Ω 4Ω 6Ω 8Ω

10 20 30 40 50

OUTPUT VOLTAGE [V]

IT'S SUPER!!!



● SUPER D.L.D. CIRCUIT ●

Super DYNAMIC LINEAR DRIVE CIRCUIT

オーディオが高度化するにつれて、これまで目安となっていた定格値だけでは、もうアンプを語りつくせなくなってきた。

いまこそ実使用に即してアンプの実力を明確にする定格が必要だ。

そこでケンウッドは新しいパワー測定法を採用した。

EIAテストシグナルによるダイナミックパワー。アンプのスピーカードライブ能力をひと目で示す。アンプの実力を数値から読みとって欲しい。

ダイナミックパワー 2Ω: **441W+441W**

4Ω: **368W+368W**

定格出力 6Ω: **180W+180W**(20Hz~20kHz両ch動作)

8Ω: **150W+150W**(20Hz~20kHz両ch動作)

全高調波ひずみ率 **0.003%**(1/2定格出力時20Hz~20kHz)

ダンピングファクター **1000**(50Hz)

スピーカードライブ能力を読みとって欲しい。デジタル時代のSuper DLD。

数値はKA-1100SDのものです。

# 音の素顔に会うためには、スピーカードライブ能力が必要だ。ケンウッドはSuper DLD。



**KA-1100SD**  
 \* Dynamic Power 441W+441W (20Ω)  
 368W+368W (8Ω)  
 \* Rated Output Power 180W+180W (6Ω 20Hz~20kHz)  
 150W+150W (8Ω 20Hz~20kHz)  
 \* Total Harmonic Distortion 0.003% (1/2 Pated Output 20Hz~20kHz)  
 \* Damping Factor 1.000 (50Hz)

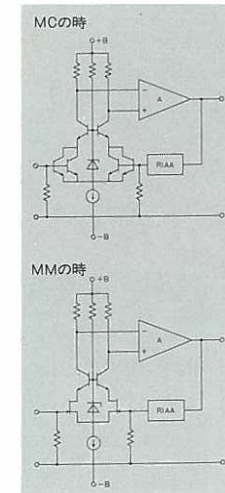
平均信号の100倍のピーク信号を含むといわれるCDの広いダイナミックレンジをこなすためには、スピーカーを十分にドライブするハイパワーが欲しい。KA-1100SDは6Ωのダイナミックパワー294W+294W、2Ωではなんと441W+441Wとすぐれたパワー供給能力を発揮する。鋭い立上がり、高SN比など、デジタルソースのよさを極限まで引きだす。

**スーパーチャージャーを駆使した独自の回路技術が、ここまで強力な電源を可能とした。**

Super DLDサーキットは、新開発のスーパーチャージャーを搭載して、DLDの4つの電源回路をフル活用、強力な電源部を構成しています。どのような出力時にも、つねに電源容量が4つの電源のミックスされた値となるため、約50Wまで受持つローパワーアンプ駆動時には従来の300Wクラスの強力電源を使っているのに匹敵し、クリアで重量感あふれた音を再生します。デジタル時代の強力電源回路、Super DLDの音。

**低出力MCカートリッジも使いこなせるデュアルヘッド・イコライザーアンプ**

これまでイコライザーアンプは①FET入力を入力インピーダンスとNFB回路の利得を切換える方式②MMイコライザーアンプの前にMC用ヘッドアンプを持つ方式が使われていました。しかしともにMM・MCの両立を考えるあまり、どちらつかずのイコライザーアンプとなっていました。つまり①の利得切換方式ではFET入力のためMCのSN比が劣化してしまい、②のヘッドアンプ方式ですとMCカートリッジの信号は2つのNFループや2つの切換スイッチの接点を通ることになり、MCはMMの性能を絶対に越えられない



ことになってしまいます。そこでケンウッドでは、MCカートリッジ用、MMカートリッジ用に、入力部の差動回路とNF素子をそっくり差換える独自のイコライザーアンプを開発。MC再生時にはMC専用、MM再生時にはMM専用として、それぞれのカートリッジの性能を最大限に発揮できるため、100μV(1Vの1万分の1)という雑音にかき消されそうなMCカートリ

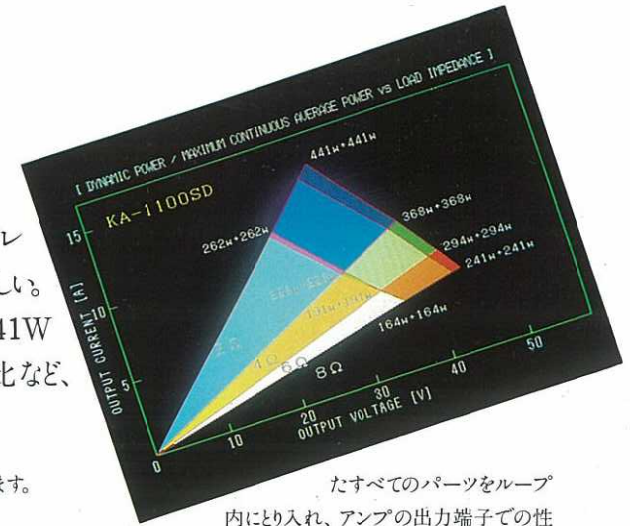
ッジでも、信号成分だけをリニアに拡大します。

**AV時代に対応した豊富な入出力端子とCDダイレクト・スイッチ**

衛星放送やHi-Fiビデオ、またコンパクト・ディスクやグラフィックイコライザーなど、オーディオの楽しさが多様化するにつれて、機種のジャンルも増えてきました。KA-1100SDにはCD、TAPE Cの入力端子を追加。入力はじつに8系統となり、さらにグラフィックイコライザーやAVセレクターがダイレクトに接続できるアダプターIN-OUT端子も備え、AV時代に対応しています。またインプットセレクト、モード、サブソニックの各接点スイッチとバランスボリュームをスイッチひとつでパスするCDダイレクトスイッチを装備。信号経路をシンプル化することにより、高SN比、広ダイナミックレンジというCDのクオリティの高い音をそのまま再現します。グラフィックイコライザーやAVセレクターはアダプターIN-OUT端子に、Hi-FiビデオはTAPE・Cに、CDはCDポジションに、衛星放送はAUXにと接続して、多彩なオーディオライフをお楽しみください。

**ΣドライブTypeB**

L-02Aなどに搭載されたΣドライブは、スピーカー実装時のひずみの発生を完ぺきといえるレベルまで抑え込んだ技術で、高い評価を得ています。KA-1100SDのΣドライブtypeBはΣドライブの設計思想はそのままに、スピーカーコードは2線式で使いやすさを追求したものです。アンプのスピーカー端子までNFループをかけることにより、パターンや配線材のインピーダンス、位相補償コイル、リレーやスピーカー切換スイッチの接点など、これまでNFループの外にあっ



たすべてのパーツをループ内にとり入れ、アンプの出力端子での性能を高めています。またすべてのGNDをアンプのスピーカー端子に一点集中させたため、GNDラインのパターンや細材による相互干渉の増加もありません。

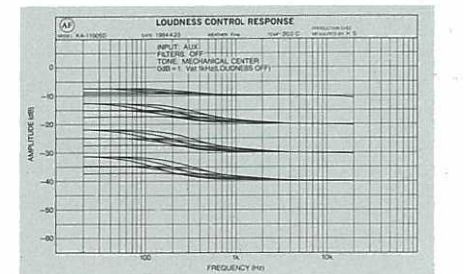
**2トランス・マルチ給電方式の電源回路**

イコライザー部用電源、コントロール用電源、パワーアンプ用電源のそれぞれに独立したトランス巻線を持ち、パワーアンプ用巻線は低インピーダンス化を一層強化するために、プラス側・マイナス側それぞれを2つのトランスに分けた2トランス・マルチ給電方式の電源回路を採用。各ステージ間の干渉を排除して、ローインピーダンス負荷時にも十分なセルフトラジエント・クロストーク排除能力を示します。

**独特なトーンコントロールと**

**ラウドネスコントロール**

トーンコントロールはケンウッド方式のNF-CR型。またラウドネスコントロールは、30Hz・60Hz・90Hzにおいて、それぞれ3dB、6dB、9dBの切り換え。変化特性が美しく高SN比と低ひずみ率を得ています。



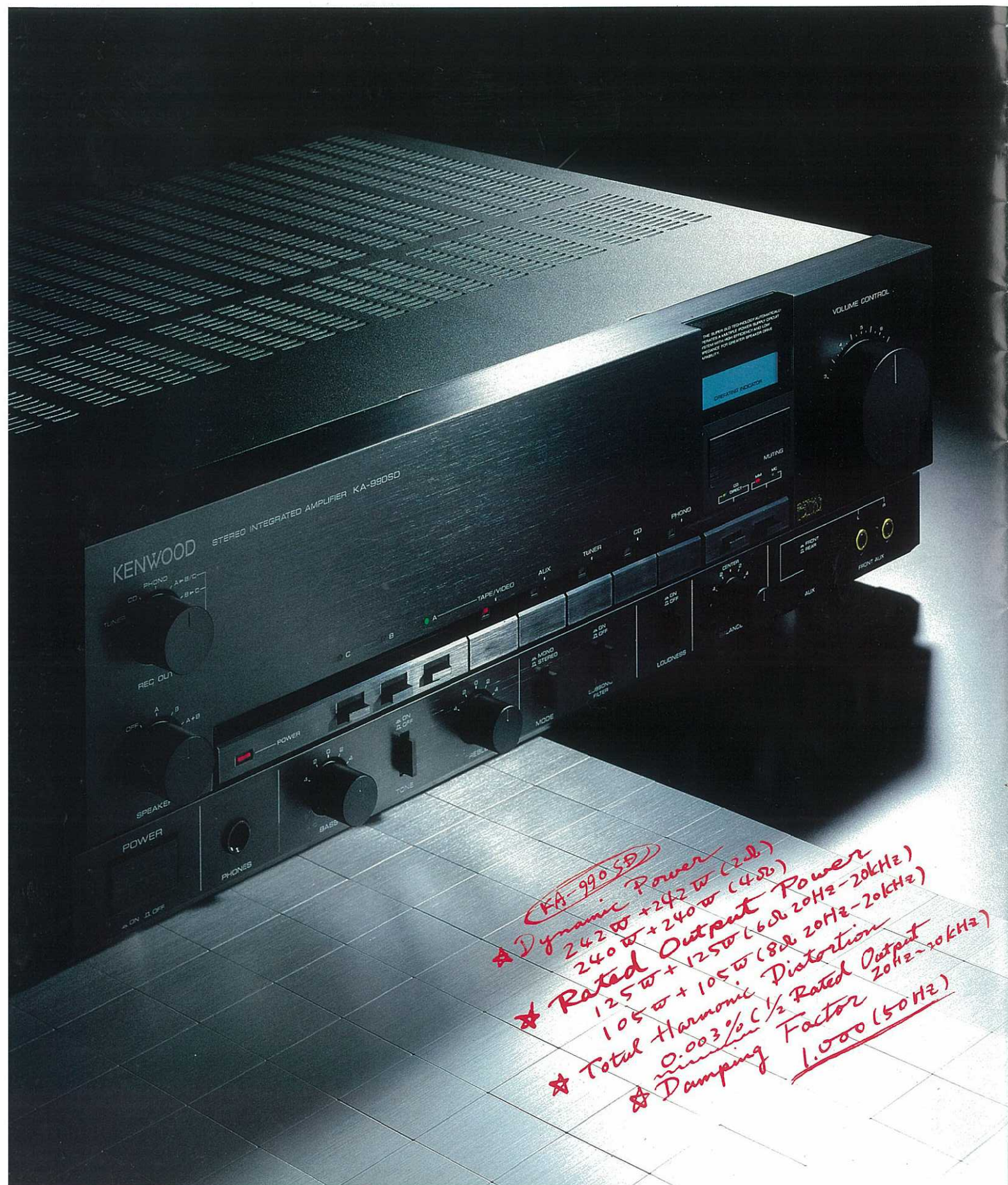
ラウドネスコントロール特性

**SUPER DYNAMIC LINEAR DRIVE**  
 180W+180W(6Ω, 20Hz~20kHz) INTEGRATED AMP ¥129,000

## KA-1100SD



# 2Ωダイナミックパワー242W+242W、ダンピングファクター1000(50Hz)。デジタル・リファレンスのSuper DLD。

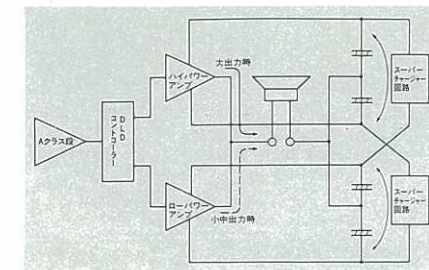


*KA-990SD*  
 ★ Dynamic Power 242w + 242w (2Ω)  
 240w + 240w (4Ω)  
 ★ Rated Output Power 125w + 125w (6Ω, 20Hz-20kHz)  
 105w + 105w (8Ω, 20Hz-20kHz)  
 ★ Total Harmonic Distortion 0.003% (1/2 Rated Output, 20Hz-20kHz)  
 ★ Damping Factor 1,000 (50Hz)

音楽情報のベースはなんといっても低音域の厚み。とくにデジタルソースでは、これまでアナログレコードの材質の陰に隠されていた超低域の情報が的確に再現される。この低音を再生するアンプのポイントがスピーカードライブ能力。KA-990SDはこの要求にSuper DLDで応える。重厚で、音像をクリアにとらえたガッツある低音、これがKA-990SDのCDの音。

### スピーカーシステムを思う存分コントロールし、CDの広ダイナミックレンジをらくらくこなす Super DLDサーキット

Super DLDサーキットは、新開発のスーパーチャージャーを搭載して、DLDの4つの電源回路をフル活用、強力な電源部を構成しています。従来のDLDサーキットはハイパワーアンプと専用電源、ローパワーアンプと専用電源というように、左右4つのアンプと4つの電源をそれぞれ切り換えて使っていたもので、電源の実質容量を増加する効果があり、とくに音質に支配的な影響をもつローパワーアンプ動作時には電源容量を倍加すると等しい効果をもつ定評ある電源重視回路でした。Super DLDサーキットは、この強力電源回路をさらに強化。スーパーチャージャーにより、これまでローパワーアンプ時には休止していたハイパワー専用電源からもローパワーアンプ駆動時にエネルギーを供給、同様にハイパワーアンプ時には休止していたローパワー専用電源からもハイパワー駆動時にエネルギーを供給できるように設計。どのような出力時にも、つねに電源容量が4つの電源のミックスされた値となるため、約30Wまで受持つローパワーアンプ駆動時には従来の200Wクラスの強力電源を使っているのに匹敵し、クリアで重量感あふれた音を再生します。デジタル時代の強力電源回路、Super DLDの音。



スーパーDLDブロックダイアグラム

### AV時代に備えた豊富な入出力端子

衛星放送やHi-Fiビデオ、またコンパクトディスクやグラフィックイコライザーなど、オーディオの楽しさが多様化するにつれて、アンプに接続される機種数も増えてきました。KA-990SDにはCD、TAPE・Cポジションを新設。入力はじつに8系統となり、さらにアダプターIN-OUT端子も装備、AV時代に応えています。グラフ



ックイコライザーやAVセクターはアダプターIN-OUT端子に、Hi-FiビデオはTAPE・Cに、CDはCDポジションに、衛星放送はAUXと接続して、多彩なオーディオライフをお楽しみください。

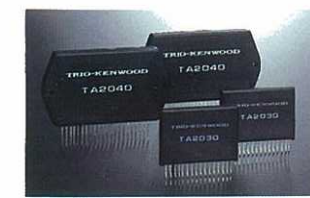
### CDダイレクト・スイッチ

高SN比、広ダイナミックレンジというコンパクトディスクのクオリティの高い音をそのまま伝送するために、CDダイレクト・スイッチを装備。CDダイレクト・ポジションでは、インプットセクター、モード、サブソニックの各接点スイッチとバランスボリュームをジャンプ。信号経路をシンプル化して、CDのハイクオリティを再現します。

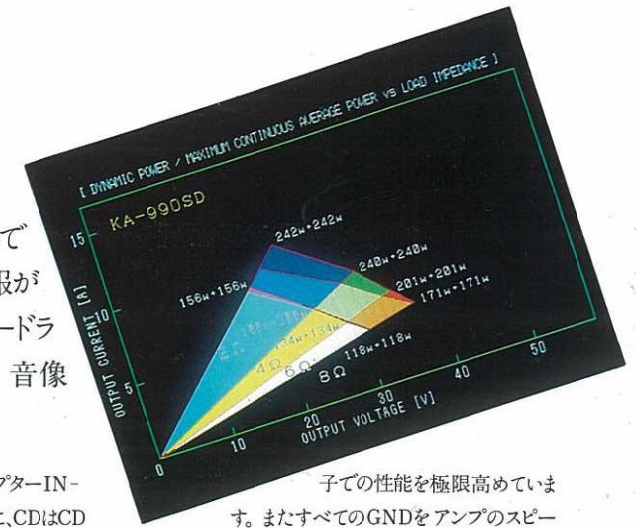
### ダンピングファクター1000(50Hz)、

### 2線式スピーカーコードのΣドライブtypeB

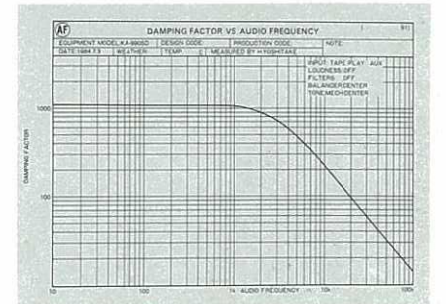
L-02Aなどに搭載されたΣドライブは、スピーカー実装時のひずみの発生を完ぺきといえるレベルで抑え込んだ技術で、とくにデジタルソースの再生において高い評価を得ています。KA-990SDに搭載されたΣドライブtypeBは、Σドライブの設計思想はそのままに使いやすさを追求したものです。通常のアンプでは、NFBループの外にパターンや配線材のインピーダンス、位相補償コイル、リレーを介してスピーカー切替スイッチの接点などがあり、アンプの出力端子での性能劣化の原因となっていました。ΣドライブtypeBは、NFBループをスピーカー端子までかけるこ



とにより、ひずみや音質の劣化を招くパーツ類をNFBループ内に入れ、アンプのスピーカー端



子での性能を極限高めています。またすべてのGNDをアンプのスピーカー端子に一点集中させ、GNDラインのパターンや線材による相互干渉の増加を抑えています。



ダンピングファクター対周波数特性

### 高性能イコライザーアンプ

アンプの入力最先端のイコライザーアンプは微小入力を扱い、ここで音質劣化があれば、劣化した音がパワーアンプに流れ込み、増幅されてしまうという意味で非常に重要です。KA-990SDにはICL高Gm FET差動入力と高性能ICによる高SN比、低ひずみ率回路によるハイグレードなイコライザーアンプを採用。とくに音質に大きな影響を与えるアース回りは、直径0.26mmの単線を26本も撚り合わせた従来の6倍の断面積を持つ線材を使用するなど、ケンウッドのノウハウを縦横に駆使した設計としています。



KA-990SDシルバートタイプ

SUPER DYNAMIC LINEAR DRIVE  
 125W+125W(6Ω, 20Hz~20kHz) INTEGRATED AMP ¥79,800

# KA-990SD



KA-990SD(B)ブラックタイプ

# スピーカードライブ能力を読みとって欲しい。デジタル時代のスーパーDLD。

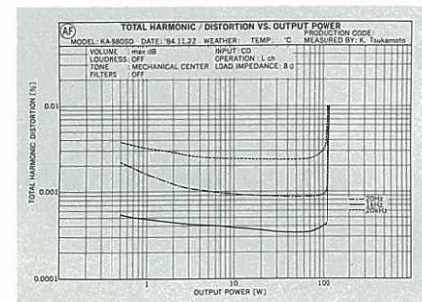
入力プログラムにCDなどのデジタルソースが生まれ、その広いダイナミックレンジや高SN比を再生するために6Ωなどのローインピーダンス・スピーカーが増えてきた。このようなデジタル時代を迎え、スピーカードライブ能力を改善したKA-880SD。音像をクリアにとらえた重厚な低音域をベースにホールの音場を雄大に描きあげる。この力強さがケンウッドの音。

## スピーカーシステムを思う存分コントロールし、CDの広ダイナミックレンジをらくらくこなす Super DLDサーキット

Super DLDサーキットは、新開発のスーパーチャージャーを搭載して、DLDの4つの電源回路をフル活用、強力な電源部を構成しています。従来のDLDサーキットはハイパワーアンプと専用電源、ローパワーアンプと専用電源というように、左右4つのアンプと4つの電源をそれぞれ切り換えて使っていたので、電源の実質容量を増加する効果があり、とくに音質に支配的な影響をもつローパワーアンプ動作時には電源容量を倍加すると等しい効果をもつ。定評ある電源重視回路でした。Super DLDサーキットは、この強力電源回路をさらに強化。



スーパーチャージャーにより、これまでローパワーアンプ時には休止していたハイパワー専用電源からもローパワーアンプ駆動時にエネルギーを供給、同様にハイパワーアンプ時には休止していたローパワー専用電源からもハイパワー駆動時にエネルギーを供給できるように設計。どのような出力時にも、つねに電源容量が4つの電源のミックスされた値となるため、約30Wまで受持つローパワーアンプ駆動時には従来の200Wクラスの強力電源を使っているのに匹敵し、クリアで重量感あふれた音を再生します。デジタル時代の強力電源回路、Super DLDの音。



全高調波ひずみ率対出力特性

## 新しいソースに対応する豊富な入力端子群

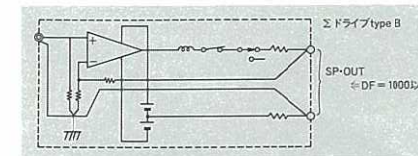
コンパクトディスクを始めとして、Hi-Fi VTR、衛星放送のためのBSチューナーなど、新しいオーディオソースが次々と誕生しています。KA-880SDにはCD専用端子やTAPE-C端子を新設、合計7系統の入



力端子で時代の要求に応えます。コンパクトディスクはCDに、Hi-Fi VTRはTAPE・Cに、BSチューナーはAUXに接続して、AV時代を華麗に演出してください。

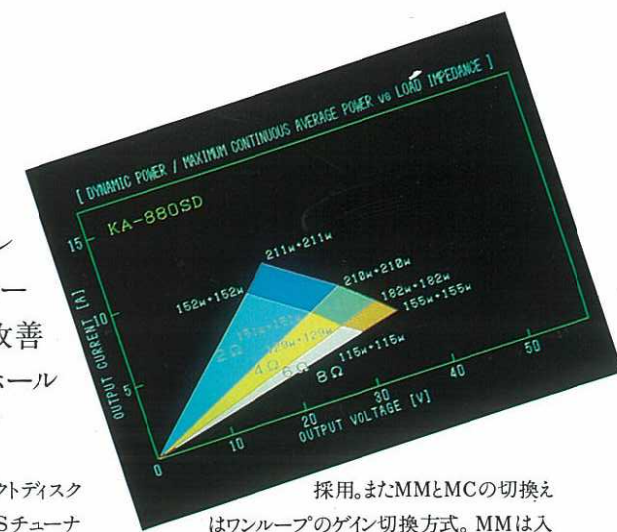
## ΣドライブType B

L-02Aなどに搭載されたΣドライブは、スピーカー実装時のひずみの発生を完ぺきといえるレベルまで抑え込んだ技術で、高い評価を得ています。KA-880SDのΣドライブtype BはΣドライブの設計思想はそのままに、スピーカーコードは2線式で使いやすさを追求したものです。アンプのスピーカー端子までNFループをかけることにより、パターンや配線材のインピーダンス、位相補償コイル、リレーやスピーカー切換スイッチの接点など、これまでNFループの外にあったすべてのパーツをループ内に入れ、出力端子での性能を高めています。またすべてのGNDをスピーカー端子に一点集中させたため、GNDラインのパターンや線材による相互干渉の増加もありません。



## 高性能イコライザーアンプ

アンプの入力最先端のイコライザーアンプは微小入力を扱い、ここで音質劣化があれば、劣化した音がパワーアンプに流れ込み、増幅されてしまうという意味で非常に重要です。KA-880SDにはICL高Gm FET差動入力と高性能ICによる高SN比、低ひずみ率回路によるハイグレードなイコライザーアンプを



採用。またMMとMCの切換えはワンループのゲイン切換え方式。MMは入力感度2.5mVでSN比86dB、MCは250μVで68dBとローノイズでDレンジの広い再生音が得られます。

## NF-CR型トーンコントロール

トーンコントロールは高SN比と低ひずみ率を誇るケンウッド方式のNF-CR型。調整つまみは使いやすいセンタークリックストップ式で±10dB連続可変、キメ細かなトーンコントロールが可能です。

## クロストークを改善するフレキシブル・フラットケーブル

入力ピンジャックからインプットセレクターまでの配線にフレキシブル・フラットケーブルを採用。このケーブルはインダクタンス成分、キャパシタンス成分、レジスタンス成分が、従来のケーブルに比べて極端に少ないため、大振数を扱う出力回路と微小レベルを扱う入力回路との電磁結合を減少でき、低ひずみを実現。同時に左右チャンネル間および入力ポジション間の相互干渉が少なく、チャンネルセパレーションやクロストークも大幅に改善しています。

## ウィンキング・パワーインジケータ

パワーインジケータは従来のパワーON表示の機能に加えて、プロテクション動作表示の機能を追加。パワーONから正常動作まで点滅するとともに、アンプに異常が発生したときも点滅して異常を知らせます。



KA-880SDシルバータイプ

SUPER DYNAMIC LINEAR DRIVE  
120W+120W(6Ω, 20Hz~20kHz) INTEGRATED AMP. ¥62,000

# KA-880SD



KA-880SD(B)ブラックタイプ

*KA-880SD  
Rated Output Power  
120W+120W(6Ω, 20Hz~20kHz)  
100W+100W(8Ω, 20Hz~20kHz)  
Total Harmonic Distortion  
0.004%  
1/2 Rated Output 20Hz~20kHz  
Damping Factor 1,000 (50Hz)*



★ FM TOKYO RADIO STATION  
No.1 STUDIO

## DIRECT LINEAR RECEPTION CIRCUIT

チューナーの発達は、つねに放送局とリスニングルーム、  
いかえるとミュージックソースと再生装置の間にある伝送空間との闘いであつた。  
ケンウッドは、またひとつ伝送空間に起因する大きな問題点を解決した。

全受信帯域で高SN比の実現。

これまで90MHzで90dB以上の高SN比を誇るチューナーでも、  
76MHzの放送を受信すると84dB位迄落ちてしまうという、  
シンセサイザー・チューナーの弱点を見事に克服した。

FM多局化時代のすべての放送局と、99dBの高SN比で直結する。

FM放送局のデジタル化、高音質化に応える。

SN比 90MHz: **99**dB(モノ) **91**dB(ステレオ)

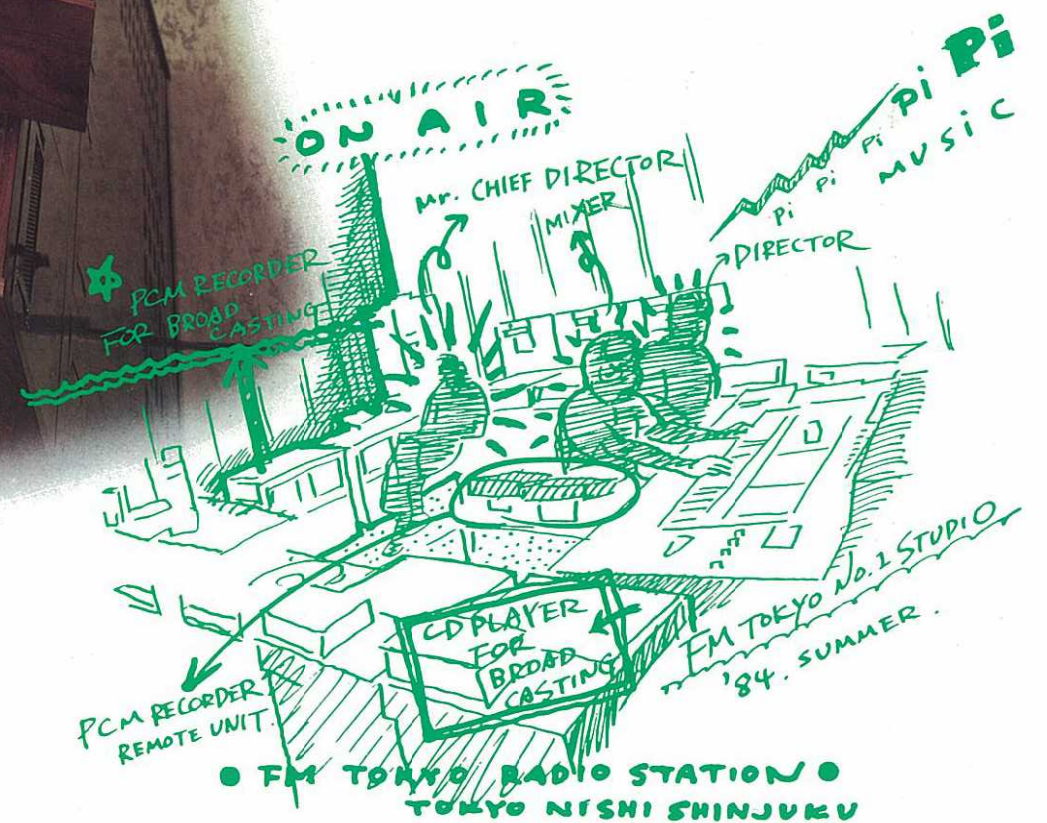
80MHz: **99**dB(モノ) **91**dB(ステレオ)

76MHz: **99**dB(モノ) **91**dB(ステレオ)

全高調波ひずみ率 **0.004**%(モノ1kHz) **0.007**%(ステレオ1kHz)

実効選択度 WIDE **70**dB~NARROW **100**dB(4段切替)

ステレオ・セパレーション **71**dB(1kHz)



放送ソースのデジタル化に応えます。多局化時代のスーパーシンセサイザー。

数値はKT-3030のものです。

性能のよさで放送局と直結します。全受信帯域SN比99dB、ダイレクト・リニアレセプション・サーキット。



伝送空間に横たわるさまざまな妨害を排除して、放送局と直結したと同じクオリティを確保したい。このFMチューナーの理想を追求する姿勢がデータにあらわれました。76MHz~90MHzの全受信帯域でSN比99dB。シンセサイザーチューナーに残された最大のネック「低受信周波数でのSN比の劣化」を克服して、いまシンセサイザーチューナーはアナログの性能を越えた。

**シンセサイザーチューナーの弱点が明らかになった。これからの問題点は低い周波数でのSN比改善。**

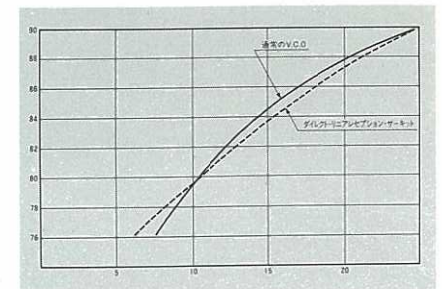
第4次チャンネルプランで開局している局や開局を予定している局は比較的低い周波数を与えられています。たとえばFM仙台77.1MHz、FM静岡79.2MHz、福井エフエム76.1MHz、エフエム岩手76.1MHz、さらに民放キー局のFM東京も80.0MHzです。これら周波数の低いFM放送を高SN比で受信することは、これまでのシンセサイザーチューナーでは不可能だったのです。というのは、シンセサイザーチューナーのSN比は90MHz位の高い周波数で測定され、そこで90dB以上の高SN比が得られたチューナーでも、76MHzの低い周波数になると6dB以上も落ちてしまうのが現実で、音質の面でアナログチューナーにおよばないといわれていた一番大きな問題でした。

**76MHzから90MHzまで、あらゆるFM局を99dBの高SN比で受信できるダイレクト・リニアレセプション・サーキット**

これまでシンセサイザーチューナーは、水晶精度を利用して、局部発振周波数と基準信号を位相比較しているため、つねに一定した周波数を保つことができるといわれていました。しかし実際に局部発振回路(VCO)の「周波数対チューニング電圧」の特性を測ると図のようなカーブを描いています。このカーブは90MHz付近ではゆるやかになっていて、チューニング電圧が多少ノイズでユレても、受信周波数のユレとして表わることが少なく高SN比を得ることも比較的簡単なことだったのです。しかし低い受信周波数となるとチューニング電圧のノイズのユレはそのまま受信周波数の大きなユレとなってあらわれて、SN比を



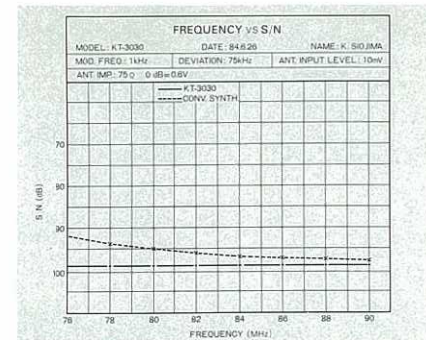
KT-3030RF増幅部



V.C.O.の周波数対チューニング電圧



シンセサイザー・コルレクティング・サーキットを組合せてIF段を構成。くにDCC機能はさらに強化。IFフィルターの2次ひずみから4次ひずみまでをキャンセルして、モノラル0.004%、ステレオ0.007%の低ひずみ率を実現しています。受信特性はもちろん最重視してIF帯域4段切換を採用。WIDEポジションでも70dB(±400kHz)の選択度を維持して、日本全国あらゆるローケーションで、ひずみの少ない音をお楽しみいただけます。



周波数対SN比特性

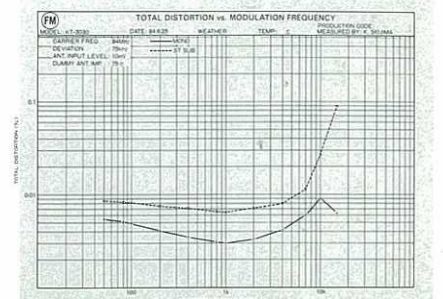
極端に劣化させていたわけです。ケンウッドでは12個のバリキャップを使ったパラレルツイン回路やMOS-FETによる新発振回路などの新しいデバイスを盛り込んだダイレクト・リニアレセプション・サーキットを開発。チューニング電圧のユレによる影響を全周波数にわたってリニアにすることに成功しました。多局化されるあらゆる放送局を99dBの高SN比で楽しめるようになって始めて、シンセサイザーチューナーは名実ともにアナログチューナーを超えます。

**高セパレーション71dB**

**クリーンレセプションフィルター・レスのDPD MPX**  
ステレオ復調回路には、KT-2020同様、38kHz以外の成分を持たない純粋な正弦波で検波出力と掛算するDPD(ダイレクト・ピュア・デコーダー)を採用。クリーンレセプションフィルターなどのローパスフィルターを信号ラインに入れていないため、位相相違がなく、高セパレーションを維持したまま、クリアなステレオ信号が得られます。

**ひずみ率0.004%(モノ1kHz)、**

**0.007%(ステレオ1kHz) DLLD&DCCのIF段**  
KT-3030では、KT-1010で完成したDLLD(ダイレクト・リニア・ループ・デテクター)とDCC(ディスト-



ひずみ率対変調周波数特性

**あらゆる電界強度で高音質受信を可能としたRFセレクター**

強電界ではダイレクト、弱電界ではディスタンスを切換え。近接した大出力の局がある場合でも、RF相互変調や混変調などの妨害を抑えて、SN比にすぐれた高品位な音を引きだします。

**KT-3030その他のファンクション**

- エアチェックミスを許さないRECキャリブレーションとモジュレーションレベルメーター
- 電波状態をひと目で確認できるディスプレイとデジタル・ロータリーチューニング
- 留守録に便利な4局プログラム機能
- FM多局化に備えた16局プリセット
- 遠距離ステレオ受信時に偉力を発揮するオートクワイティング・コントロール
- マルチパス端子
- 可変/固定出力端子

DIRECT LINEAR LOOP DETECTOR  
SUPER SYNTHESIZER FM STEREO TUNER ¥120,000

# KT-3030



SN比99dB(モノ76MHz~90MHz)、ひずみ率0.005%(モノ1kHz)。音に真価を発揮します「FMのケンウッド」。

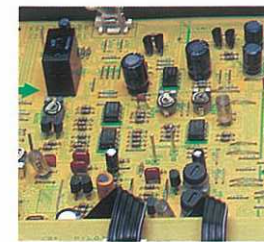
RFはダイレクト・リニアレセプション・サーキットで全受信帯域SN比99dB、IFはDLLD & DCCでひずみ率0.005%(モノ1kHz) 0.008%(ステレオ1kHz)、MPXはDPDでステレオ・セパレーション70dB。アンテナ入力から出力まで1桁性能アップしたKT-2020。放送局の送り出しソースのデジタル化、放送回線のPCM化など、放送局側の進化に音のよさで十分対応します。

**全国のFM放送局と高SN比99dBで直結する  
ダイレクト・リニアレセプション・サーキット**

シンセサイザーチューナーは、水晶精度で局部発振周波数と基準記号を位相比較しているため、一定した周波数を得ることができるといわれます。しかし水晶時計でも温度変化などによって狂いができるように、あくまでも机上の理論であって実際にはありません。このようなシンセサイザーの微妙な狂いから、90MHzでは高SN比を得ているチューナーでも、76MHzのように低い周波数になると低SN比のチューナーにレベルダウンさせてしまうという現象を引き起こしていました。この現象を排除して、76.1MHzの福井エフエム、エフエム岩手から80.0MHzのFM東京など、全受信帯域を99dBの高SN比で楽しめるようにしたのがKT-2020のダイレクトリニアレセプション・サーキット。FM多局化によって新設される全国のFM放送局をクリアな音で受信できます。

**ステレオセパレーション70dB(1kHz)  
信号系にローパスフィルター類を必要としない  
DPD MPX**

従来のスイッチング方式のステレオ復調器では、38kHzの方形波を使ってステレオ復調をしています。この38kHzの方形波には高調波成分が多数含まれていて、その奇数次の高調波の周辺に妨害信号があると、可聴帯域にビートダウンされ、聴き苦しい混信妨害を発生します。この高調波のうち114kHzと190kHzがとくに問題となっていたため、クリーンレセプション・フィルターなどを使い、混信妨害が起こらないようにしていたわけです。しかし混信妨害に強いこのフィルターは位相まわりなどにより、高域のセパレーションを劣化させる原因となりました。これに反してKT-2020では新開発のDPD(ダイレクト・ピュア・デコーダー)MPXを採用。従来の方形波でスイッチングするのと違って、38kHz以外の成分をまったく持たない純粋な正弦波で検波出力と掛算する方式をとっているた



KT-2020 MPX復調部

**ひずみ率0.005%(モノ1kHz)、  
0.008%(ステレオ1kHz)  
DLLD&DCCのIF段**

KT-2020ではKT-1010で完成したDLLD(ダイレクト・リニアレセプション・ディテクター)とDCC(デモジュレーション・コレクティング・サーキット)を組み合わせてIF段を構成。ワイドポジションでも70dBの高選択度を維持しながら0.005%(モノ1kHz) 0.008%(ステレオ1kHz)の低ひずみ率を得ています。

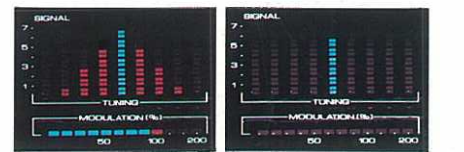
**エアチェックミスを許さない  
RECキャリブレーター&モジュレーション・レベルメーター**

RECキャリブレーターは基準信号を発生する機能ですが、最近のデッキやテープの性能改善を考えると、基準信号を知るだけでエアチェックが十分とはいえなくなってきています。KT-2020では、モジュレーション・レベルメーターにより、演奏中のモジュレーション・レベル変化をリアルタイムに表示、ピークホールド機能によりレベルをひと目でわかるようにしています。定常レベルはRECキャリブレーターで調整し、その後の微調整はモジュレーション・レベルメーターで行なえば、エアチェックミスはもうありません。

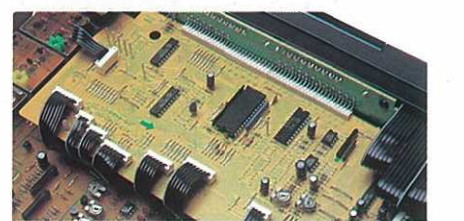
**先進のマルチディメンション・チューニング  
チューニングノブによる回転方式のデジタルローターチューニングと、正同調までのプロセスをビジュ**



FM東京主調整室調整卓  
(ここからPCMネットワークをとおして全民放FM局へ番組が送られます。)  
アルて伝えるマルチディメンション・チューニング。このディスプレイは、スタティック点灯方式のため、ノイズの発生を抑え、再生音に悪影響を与えません。



マルチディメンション・システム 正同調表示  
100kHzスレイトポイント表示 デジタルローターチューニング機構



ディスプレイ駆動部

**AM帯域可変回路(特許申請中)  
KT-2020にはAM帯域可変回路を採用。周波数特性を自在にコントロールして、AMを音質にすぐれたHi-Fiソースに変身させてくれます。**

**KT-2020その他のファンクション  
●留守録に便利な2局プログラム機能 ●遠距離ステレオ受信についオートクワイティングコントロール**



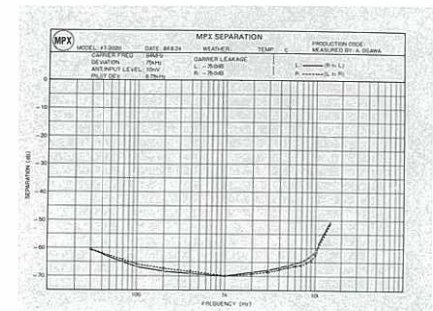
KT-2020シルバートイプ

DIRECT LINEAR LOOP DETECTOR  
SUPER SYNTHESIZER FM/AM STEREO TUNER ¥74,800

# KT-2020



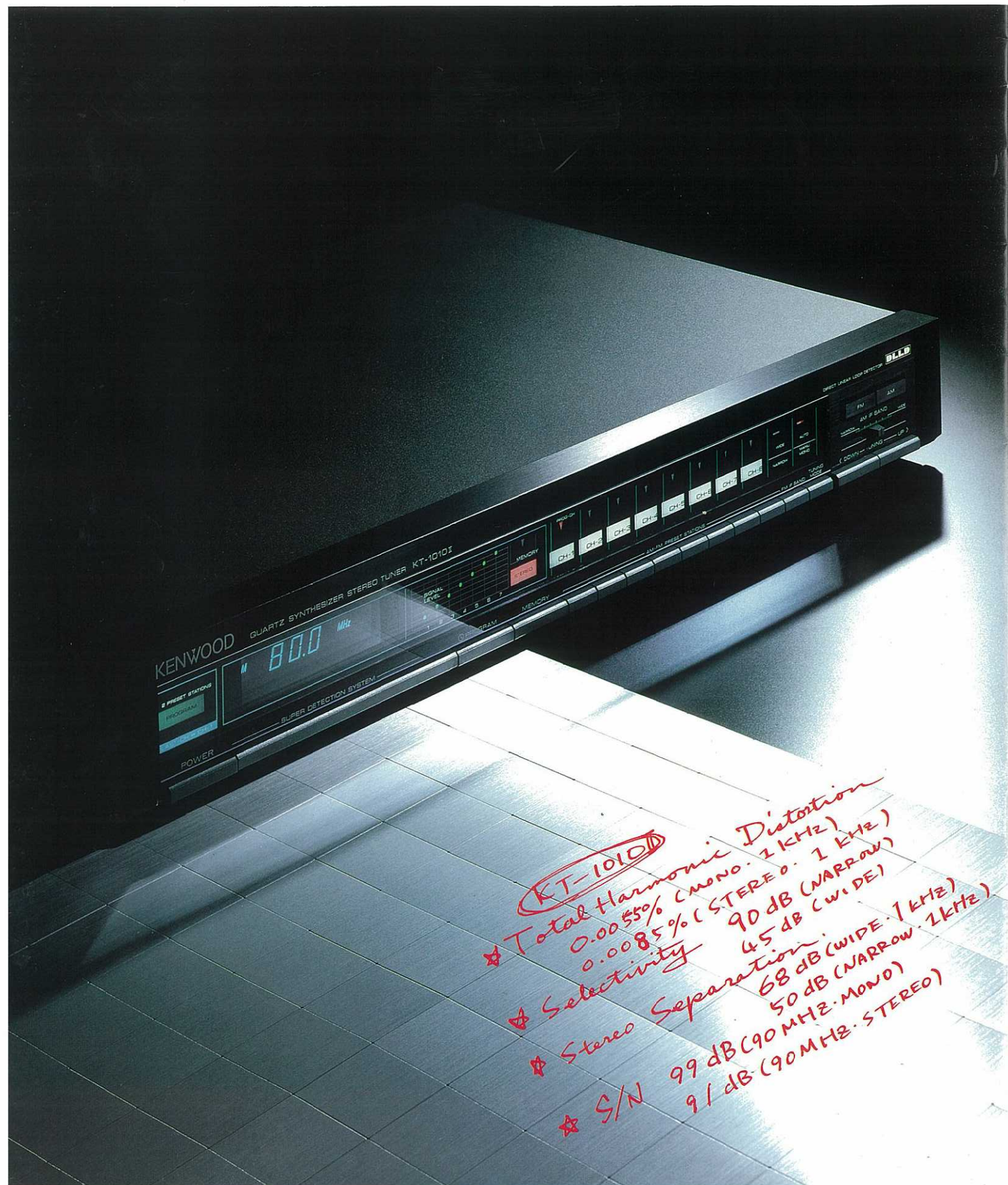
KT-2020(B)ブラックタイプ



KT-2020セパレーション特性

**KT-2020**  
 ★ S/N 99dB(MONO) 91dB(STEREO): 90MHz  
 99dB(MONO) 91dB(STEREO): 80MHz  
 99dB(MONO) 91dB(STEREO): 76MHz  
 ★ Total Harmonic Distortion 0.005% (モノ1kHz) 0.008% (ステレオ1kHz)  
 ★ Selectivity 100dB(NARROW) 70dB(WIDE)  
 ★ Stereo Separation 70dB(1kHz)

実効選択度45dB(WIDE)、ひずみ率0.0055%(モノ1kHz)。多局化時代に実力を問います。



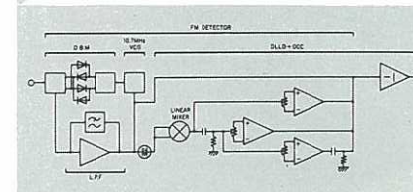
**KT-1010II**  
 ☆ Total Harmonic Distortion 0.0055% (MONO 1kHz)  
 ☆ Selectivity 90dB (STEREO 1kHz)  
 ☆ Stereo Separation 45dB (WIDE 1kHz)  
 ☆ S/N 99dB (90MHz MONO)  
 91dB (90MHz STEREO)

選択度はNARROWポジションで90dB、WIDEポジションで45dB、ステレオひずみ率は0.0085%(1kHz WIDE)と圧倒的で、モノラルではなんと0.0055%(1kHz WIDE)を示すKT-1010IIが完成。チューナーとしての受信特性を充実させ、そのうえでオーディオ特性を改善するという、オーソドックスなチューナー技術は、まさに「FMのトリオ」の実力。

**全国のFM局と高SN比99dBで直結する  
ダイレクト・リニアレセプション・サーキット**

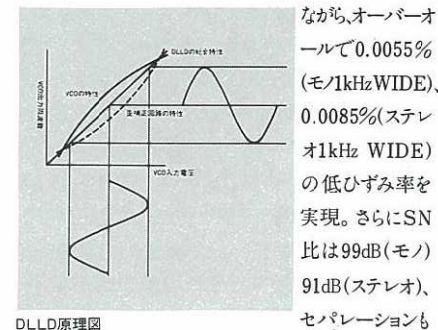
DLLDなどの開発により、シンセサイザーチューナーのSN比は大幅に向上しています。しかしフロントエンドの局部発振回路の性能限界に限定されて、低い受信周波数帯域でのSN比は急激に劣化していました。そのため90MHzなどの高い周波数にあるFM局は高SN比の美しい音で聴けても76MHz~80MHzなどの低い周波数にあるFM局は、SN比の劣化した質の悪い音でしか聴けないというアンバランスな現象が現われていました。そこでKT-1010IIにはKT-3030で開発されたダイレクト・リニアレセプション・サーキットを採用。局部発振回路の周波数対チューニング電圧特性(KT-3030の項参照)を全周波数にわたってリニアにすることにより、76MHzの低周波数でも99dBの高SN比を得ることに成功しました。日本全国のあらゆるFM局を高SN比で楽しめる画期的なチューナーです。

**スーパーディテクション(SD)システムとして  
さらに完成度を高めたDLLDシステム**



KT-1010II DLLDブロックダイアグラム

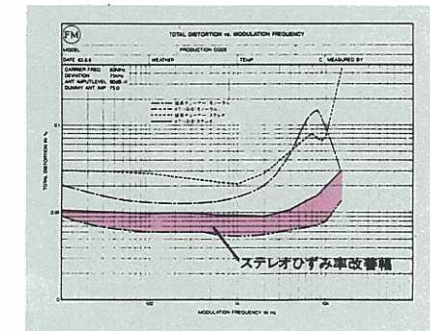
10.7MHzのIF信号をダイレクトにリニア化して、閉ループ検波器で検波。さらに閉ループ内にひずみ補正回路を設けて、VCOの非直線ひずみなどを打消するというまったく新しい検波方式がDLLD(ダイレクト・リニア・ループ・ディテクター)です。KT-1010IIではDLLDのサーキットに、さらに新開発のIFひずみ補正回路を設置して、IFフィルターで発生する高調波ひずみを低減。45dB(WIDE)の高選択度を維持し



DLLD原理図

ながら、オーバーオールで0.0055%(モノ1kHz WIDE)、0.0085%(ステレオ1kHz WIDE)の低ひずみ率を実現。さらにSN比は99dB(モノ)91dB(ステレオ)、セパレーションも

68dB(1kHz)とオーディオ諸特性を改善しています。またスルーレート6V/μsのハイスピード・オペレーショナル・アンプを採用するなど、スーパー・ディテクションシステムの名に恥じない完成度を秘めたシステムです。



KT-1010II 総合ひずみ率特性

**ステレオひずみ率0.0085%(1kHz)**

IFひずみ補正回路の効果はステレオ時にもおよびます。FMのステレオ感に関する情報信号であるサブ信号は23kHz~53kHzと、50Hz~15kHzの主信号とは離れた周波数で送られてきます。しかしIFフィルターで発生する高調波ひずみはサブ信号帯域にも混入して、高調波ひずみ成分とサブ信号成分とでビートを発生させ、音質を著しく劣化させます。DLLDはIFフィルターで発生する高調波ひずみを打消していますので、サブ信号にひずみを混入させず、ステレオひずみ率0.0085%(1kHz)を実現。クリアで透明感のあるステレオ・リスニングを可能としています。FMリスニングに新しい可能性を拓くニューテクノロジーの誕生です。

**音質重視の2電源方式**

オーディオ系とループフィルター系に6.97VA、PLL、表示系などのロジック系に7.2VAと2つの系統にそれぞれ専用電源トランスを使用した2電源方式を採用して、電源を介した互の干渉を排除。さらに信号ライ



FM東京でエアモニターとして活躍しているL-03TPRO

ン、電源ラインと整理されたパターン設計をすることにより、各ブロック間の干渉を抑えてクリアの高い音を得ています。

**大入力特性にすぐれたフロントエンド**

チューナーのすべての特性の土台となるのが受信特性です。KT-1010IIではRF増幅部とMIX部にデュアルゲートMOS・FETを採用し、大入力特性の象徴的な相互変調特性を大幅に改善。FM帯の電波だけでなく、テレビ電波が同時に、強烈に飛び込んできても相互変調妨害は発生せず、FM帯でのSN比の劣化もまずありません。

**FM・IF帯域2段切換**

あらゆる受信条件に応じて最適なリスニングができるように、IF帯域2段切換えを設置。WIDEポジションは45dBの高選択度特性を得ながら、0.0055%(モノ1kHz)、0.0085%(ステレオ1kHz)の低ひずみ率を実現。FMの音のよさを十分に引きだします。一方、NARROWポジションは90dBの高選択度特性を発揮して、すぐれた妨害排除能力を示します。大出力局にある小出力の局もクリアにキャッチします。

**FM8局、AM8局プリセット機構とオートチューニング機構**

プリセット・メモリーはFM8局、AM8局の計16局。好きな局がワンタッチで呼びだせます。その他の局を聴きたいときはオートチューニングで、25dBという微弱な局の電波もキャッチ。

**AM帯域可変回路(特許申請中)**

現在、国内のAM局は高音や低音のレベルを上げて送信するプリエンファシス方式を採用しています。しかも各放送局のプリエンファシスの量はそれぞれ異なっています。そこでKT-1010IIにはAM帯域可変回路を採用して周波数特性をコントロール。AMをHi-Fiソースに変身させてくれます。

DIRECT LINEAR LOOP DETECTOR  
SUPER SYNTHESIZER FM/AM STEREO TUNER ¥59,800

**KT-1010II**



高選択度60dB、低ひずみ率0.006%、高SN比98 dB...「高音質受信」をつきつめると、チューナーはこうなる。

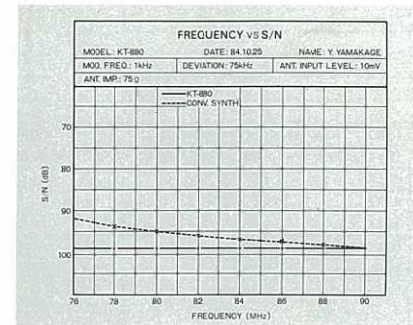


*KT-880*  
 \* Total Harmonic Distortion 0.006% (MONO: 1kHz)  
 \* Selectivity 60dB (STEREO: 2kHz)  
 \* Stereo Separation 68dB (1kHz)  
 \* S/N 98dB (MONO): 90MHz  
 88dB (STEREO): 90MHz

ケンウッドの新しいFM技術「DLLD&DCC」によりひずみ率0.006%(モノ1kHz)、選択度60dBと「受信特性」と「音質特性」を両立。さらにダイレクト・リニアレセプション・サーキットを開発して、全受信帯域で90dBの高SN比を実現し、従来のシンセサイザータunerの弱点を見事に克服しました。1ランク上を狙ったケンウッドの音。

**全国のFM放送局と高SN比98dBで直結するダイレクト・リニアレセプション・サーキット**

シンセサイザータunerは、水晶精度で局部発振周波数と基準記号を位相比較しているため、一定した周波数を得ることができるといわれます。しかし水晶時計でも温度変化などによって狂いが生じ、あくまでも机上の理論であって実際ではありません。このようなシンセサイザの微妙な狂いが、90MHzでは高SN比を得ているチューナーでも、76MHzのように低い周波数になると低SN比のチューナーにレベルダウンさせてしまう現象を引き起こしていました。この現象を排除して、76.1MHzの福井エフエム、エフエム岩手から80.0MHzのFM東京など、全受信帯域を98dBの高SN比で楽しめるようにしたのがKT-880のダイレクト・リニアレセプション・サーキット。FM多局化によって新設される全国のFM放送局をクリアな音で受信できます。



**新開発の広帯域直線検波DLLD(特許申請中)**

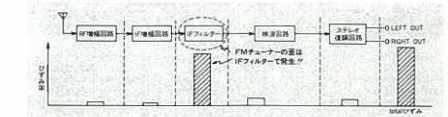
選択度60dBで、しかもSN比98dB(モノ)、ひずみ率0.006%(モノ1kHz)、受信特性とオーディオ特性を両立させた新開発のダイレクト・リニアレセプティクター。10.7MHzのIF信号をダイレクトにリニア化して、閉ループ検波器で検波。さらに閉ループ内にひずみ回路補正を設けて、VCOの非直線ひずみやIFフィルターで発生するひずみもゼロにしようというまったく新しい検波方式です。またDLLDは閉ループ検波器ですので、ループ内で発生するノイズは抑えられ、きわめて高いSN比の検波器となります。いってみれば、DLLDはパルスカウンターの直線性をそのまま生かした高SN比検波器です。

**IFひずみ補正回路(DCC)特許申請中**

希望局と近くにある局とで発生する混信やビートなどが音質に与える影響は、ひずみ率やSN比などのレベルをはるかに越えた大きなもので、オーディオ・チューナーの歴史は、いかに隣接局妨害を抑えるかの

歴史であったかといっても過言ではありません。この隣接局の妨害を排除するのがIFフィルターです。そして理想的な妨害排除能力を備えたフィルターは、希望局だけをキャッチするために、必然的に帯域の狭い、急峻な特性をもつものになります。しかし、理

- 1) FMチューナーの各部で発生する歪
- 1) 一般のチューナー



FMチューナーのひずみの発生過程をみると、ひずみの大部分はIFフィルターで発生していることがわかります。

- 2) FMチューナーにもIFフィルターがなかったら



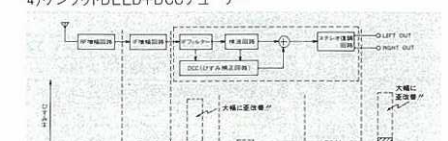
もしFMチューナーからIFフィルターを取り除くことができれば、トータルのひずみの量は大幅に抑えることが可能です。

- 1) FMひずみ改善の方法 (IFフィルターの帯域幅を同じとした)



ここでFM検波とステレオ復調回路を一体型としたデコーダーを製作してみました。量的にもっと大きなIFフィルターのひずみを改善しないうざり、トータルのひずみの量としてはほとんど改善されません。

- 4) ケンウッドDLLD+DCCチューナー



ケンウッドのDLLD&DCC回路はIFフィルターのひずみを大幅に低減した新回路です。この結果0.006%(モノ)、0.009%(ステレオ)とトータルのひずみの量を大幅に向上しています。



FM東京で使われているデジタル機器

理想的な選択度をもつフィルターは、オーディオ的に考えると高調波ひずみ成分を多分に内蔵したものもあります。ここに受信特性とオーディオ特性を両立し難いチューナー最大のネックがありました。ケンウッドはまず影響の大きな隣接局妨害を排除するために理想フィルターに近い急峻なフィルターを使い、2信号選択度を60dBと充実しています。そのうえでひずみの改善にのりつきました。IFフィルターで発生するひずみは可聴全帯域にわたって、とくに6kHz~9kHzでのひずみの劣化は激しいものがありました。新開発のIFひずみ補正回路は、IFフィルターで発生した高調波ひずみ成分だけを抽出して、キャンセル。ひずみ率0.006%(モノ1kHz)と激減できたわけです。

**大入力特性にすぐれたフロントエンド**

チューナーのすべての特性の土台となるのが受信特性です。KT-880ではRF増幅部とMIX部にデュアルゲートMOS・FETを採用し、大入力特性の象徴的な相互変調特性を大幅に改善。FM帯の電波だけでなく、テレビ電波が同時に、強烈に飛び込んできても相互変調妨害は発生せず、FM帯でのSN比の劣化もありません。

**留守録に便利なプログラム機構**

タイマーと連動して、AM10:00~AM11:00FM東京、PM1:00~PM2:00NHK・FMというように、2つの放送局を留守録することができます。KT-880のプログラム・メモリーは、CH-1以外の1局(CH-2~CH-8)をプリセットしておけば、電源が入ったときにはプリセットした局を受信。一旦電源が切れて、2度目に電源が入ったときにはCH-1を受信します。留守の間にテープライブラリーを充実してください。



(KT-880シルバータイプ)

DIRECT LINEAR LOOP DETECTOR  
 SUPER SYNTHESIZER FM/AM STEREO TUNER ¥45,000

# KT-880

(KT-880ブラックタイプ)